

プログラム開発から実践まで、環境教育指導者研修 実施報告 2

実現可能なプログラムづくり

2006年12月25日（月）～2007年1月26日（金）

この研修では、第2ステップとして「実現可能なプログラムへのブラッシュアップ」を企画し、希望またはご了承をいただいた14の施設を訪問して、プログラムづくりのお手伝いをさせていただきました。

《施設訪問を終えて》

第1ステップの全体研修をふまえて、実際に実施できるプログラムづくりに向けて、多くの施設に訪問を受け入れていただきました。短期間で書類などの準備をお願いしたにもかかわらず、書類や写真などを整備していただき、さらに、今回のプログラム集作成に向けて、より多様な見学者に対応できるようにプログラムの内容を吟味したり新たに設けたりしていただいたところもたくさんありました。逆に、人員削減などのためプログラムの実施が困難だと思われる施設についても、いろいろな可能性について一緒に考える時間を持っていただきました。

訪問の際には、それぞれの施設の設備や機能だけでなく、職場としてのよい雰囲気も感じました。プログラム内容の吟味や新設に向けての職場の皆さんでの協力の様子や、施設の皆さんの環境保護に向けた気持ちが伝わってきました。また、こちらからの要望に対して、職場の皆さんで対応を検討くださったところもありました。

訪問のあとも、こちらからの問い合わせの電話や電子メールなどに快く対応いただき、プログラムについて何回ものやり取りを経て、訪問の内容を補完することができました。

（定村 誠）

訪問した各施設では、担当者だけでなく上司もいっしょに話し合いに参加され、施設の説明をしていただいたり、「最初にざっと見学されますか？」と、施設を案内していただいたりもしました。施設を見せていただくことでプログラムのイメージも広がり、素案を基に提示されたプログラムに、ちょっとしたアドバイスをすることもできました。

中には、施設内の人的対応やその他の状況が許さず、新たなプログラムとして実現させることができなかった例もあり、たいへん残念でしたが、見学コースに多少の工夫をしていただくことで、ある程度の補完になったのではないかと思います。様々な制約の中で精一杯を尽くしていただき、環境教育への更なる一歩にご理解をいただけたことが、この訪問を通してひしひしと感じられました。

（本田恭子）